

I 極東地域研究センターの新たな展開

富山大学は、経済学部を中心に早くから環日本海地域研究に熱心に取り組んできました。1973年に富山大学北陸経済研究所が日本海経済研究所と改称し、そしてソ連崩壊後、環日本海経済圏構想など日本海を通じた対岸諸国との経済交流が注目されるようになると1997年に環日本海地域研究センターに改組され、2001年に文科省省令施設として極東地域研究センターが設立されました。北東アジア地域の経済・社会・環境に関する総合的な地域研究を志向し、この地域の経済発展が社会的安定と環境保全を伴いながら実現される道筋、つまり、持続的発展への道筋を追求するという理念のもと、小さいながらも活発な研究活動を行ってきました。

本センターの活動を支えてきたスタッフが退職・異動をするなか、私たちはセンターの新たな展開を模索してきました。これまで進めてきた北東アジア地域研究の理念を継承しつつ、北東アジア地域研究という各国・地域の国境・境界・研究領域に縛られない新たな地域研究の推進を目指し、文理融合地域研究の可能性をさらに高め、グローバルにサステイナビリティ学を推進できるような人事を戦略的に行ってきました。古きよきものを残しつつ、10年先を見据えた組織再編ができたことと筆者は考えています。新たなセンターの和名は「サステイナビリティ国際研究センター」ですが、センター専任スタッフの過半数が日本語を母国語としないスタッフとなり、英名である **Global Research Centre for Advanced Sustainability Science (GRASS)** のほうがスタッフにとっても馴染み深いものとなることでしょう。

GRASS は、今年度に発足した大学院である持続可能社会創成学環グローバルSDGsプログラムと連動しています。グローバルSDGsプログラムの英名も、GRASSに重ね合わさった **Global Sustainability Science Program** です。GRASSの研究成果を大学院教育にも還元し、GRASSが持続可能社会創成学環グローバルSDGsプログラムの片翼となって飛躍していくことを期待しています。極東地域研究センターを温かく見守り支えて下さった方々には、今後どうぞ温かい御支援を賜りますようお願いいたします。

GRASSは、和田直也教授（センター長）、堀江典生教授（副センター長）、Geetha Mohan 教授、Chakraborty Shamik 准教授（新年度着任）、Shishir Sharmin 助教、楊潔非常勤研究員、馬駿教授（経済学部併任）、谷口奈那（事務担当）の8人をコアメンバーとして4月から始動します。

（文責：和田直也・堀江典生）

II DSSAT 国際研修プログラム 2023

富山大学は、フロリダ大学、DSSAT 財団、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN-GCR) と共同で「東南アジアの農業生産システムにおける作物シミュレーション・モデリングと気候リスクの影響」に関する国際研修ワークショップをタイのバンコクにて2023年1月9日から14日までの6日間開催しました。この研修プログラムは、様々な気象・気候条件下における農業資源、すなわち水資源や窒素が作物の成長周期、生育、収量に及ぼす関係を予測するためのシミュレーションモデルについて、参加者に理解を深めてもらうことを目的としています。会場となったセンチュリーパークホテルには、応募者のなかから選考されたカンボジア、インドネシア、ラオス、タイから21人の専門家が集まりました。参加者は、若手研究者、大学院生、農業関連実務者によって構成され、講師陣はフロリダ大学 Hoogenboom 教授(米国)、チェンマイ大学 Attachai Jintrawet 名誉教授(タイ)、富山大学ギータ・モハン教授、プリンス・オブ・ソクラー大学 Jakarat Anothai 教授らが務め、様々な実験データを駆使した DSSAT ソフトウェア (version 4.8) の習得が目指されました。本プログラムは、アジア太平洋地球変動研究ネットワークの助成による2年間のプロジェクト「作物シミュレーション・モデリングと東南アジアの農業生産システムに対する気候リスクの影響に関する能力開発トレーニングワークショップ」の一環として開催され、極東地域研究センターのギータ・モハン教授により企画・実施されたものです。



写真：参加者との質疑応答



写真：修了証書を手にする参加者と講師陣

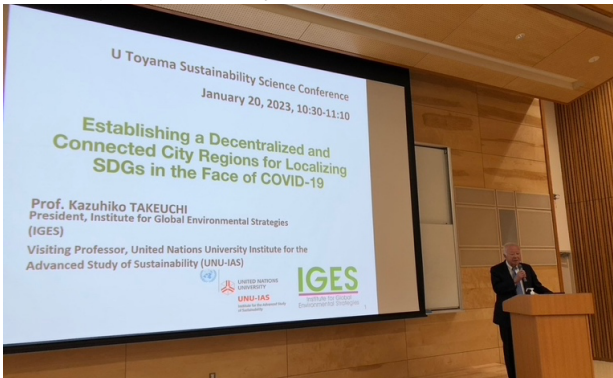
（文責：堀江典生）

Ⅲ 富山大学主催サステナビリティサイエンスコンファレンス 2023

本センター教員が中心となって、富山大学主催サステナビリティサイエンスコンファレンス 2023 が、2023年1月20日・21日の2日間にわたって開催されました。本コンファレンスは、本学大学院持続可能社会創生学環をはじめとする本学全体が、持続可能な開発のための大学院教育に関する国際的ネットワーク ProSPER.net に加盟したことを記念し、国際機構と連携して企画したものです。1日目は、齋藤滋学長の開会挨拶に続き、武内和彦 地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長、福士謙介 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 客員教授による記念講演が行われました。2日目は、世界12カ国から集まったサステナビリティ学を専門とする気鋭の若手研究者が中心となり、食料システム、水資源管理、生態系管理それぞれの課題に対し、レジリエンスに着目したディスカッションが行われました。2日間で、国内外から延べ約120名(対面・オンラインの合計)の参加者があり、今後のレジリエントな社会のあり方について議論が深められました。4月から持続可能な社会の構築を目指す俯瞰的な科学であるサステナビリティ学を推進する本センターとして、今後の布石となる意義のあるコンファレンスとなりました。



写真：齋藤滋学長の開会挨拶



写真：武内和彦先生の特別講演



写真：二日目のグループディスカッション参加者

(文責：堀江典生)

CFES NEWS

【イベント・往来】

2022年12月23日：信州大学牧田直樹准教授をお迎えして若手研究者ワークショップシリーズ第七回“Tree fine root ecology and me under the Japan Alps in Shinshu”が開催されました。

2023年1月20-21日：富山大学サステナビリティ学国際会議「SDGs 達成とレジリエントな社会の実現に向けた持続可能なシステムの再構築を目指して *Sustainable transformation systems to achieving SDGs and a resilient society*」を富山大学にて開催しました。

2023年2月10日：北日本新聞に本センター堀江典生教授による「ロシアのウクライナ侵攻から1年」と題する論評が掲載されました。

2023年2月10日：近畿大学石村雄一さん、辺成祐さんをお招きして若手研究者ワークショップシリーズ2022を開催しました。報告論題は、それぞれ“Impact of COVID-19 Stay-at-home orders on waste management”, 「鉄鋼産業の技術移転研究：韓国ポスコの技術導入からインドネシア移転まで」でした。

2023年3月15日：環日本海学術ネットワーク特定テーマ研究支援事業シンポジウム「農業における地域資源利用の可能性と課題」がセンター主催、富山県の後援のもと、富山国際会議場で開催されました。高知大学の増田和也准教授による講演「地域資源利用からみる在来農法の再評価」に始まり、八ヶ山ベジラボの杉林外文氏、酒井富夫富山大学名誉教授、和田直也センター長、本学持続可能社会創成学環院生の檜垣涼氏らによる座談会ではセンターが実施した土壌調査の成果をもとに、有機農業における地域資源利用のあり方について議論が行われました。

2023年3月16日：カタール大学環境科学センター Juha M. Alatalo 教授をお迎えして、CFES セミナー“Studying Biodiversity from the Arctic to Arabian Deserts”を開催しました。

2023年3月17日：大阪公立大学天島華織准教授をお招きして若手研究者ワークショップシリーズ2022“Volnerability and Adaptation to Natural Disasters in Trade: Evidence from Cross-Country Panel Data”を開催しました。討論者には東海大学山本雅資教授をお迎えしました。おふたりともかつてCFESメンバーだったこともあり、現在は他大学で活躍するかつてのCFESメンバーも多く参加し、同窓会のような研究会になりました。

【書籍のお知らせ】

小池孝良・塩尻かおり・中村誠宏・鎌田直人(編)「木本植物の被食防衛」が共立出版から刊行されました(2023/3/25)。和田直也が第5章3節を分担執筆しました。

【お知らせ】

CFES Newsletter は、本号をもって終了となります。サステナビリティ国際研究センターとなり、また新たなニューズレターでセンターの活動をみなさまにご報告していきたいと考えています。

(文責：谷口奈那)